

(件 名) 新総合体育館（スポーツ・コンベンションセンター）整備計画の設計料や事業計画の進め方について抜本的な熟議を、知事、県及び県議会に対して求めます

(陳情の趣旨)

5月26日月曜日の県議への説明会にて設計料9億円の予算計上についての報告がありましたが、その金額の正当性や詳細についての説明は県民が十分に納得できるものではありませんでした。また、高度なデザイン性や機能性が求められる大規模公共施設において、設計プロポーザルや国際コンペの開催についての議論もないままに設計料の入札のみを早急に行おうとしている県の方針も到底納得できるものではありませんし、このような現状にも関わらず平然と事業計画を進めていく県の体質と、整備計画の問題点・疑問点を把握しつつも黙認し続けてきたこれまでの県議会の在り方を大変危惧しております。

以上を踏まえ、県議会において十分かつ慎重なご検討を賜りますよう重ねて申し上げ、下記事項を陳情いたします。

1. 今年2月にPFI方式から従来型方式へ方向転換して以降、従来型方式でどのように進めていくべきかについて県民へ十分な説明もなく、県議会での全く議論もなされていません。設計料の予算計上の議論の前に、まずは従来型方式での今後の進め方について県議会において十分な議論をしていただくことを強く要請いたします。
2. 3月議会や文教観光委員会にて県や県議からの話に出ていたような「鹿児島のシンボルとなる」「県民が世界に誇れるような」施設整備を目指すのであれば、従来型方式においてはまず設計プロポーザルや国際コンペを開催し、県内外国内外問わず数多くのアイデアを募集し、デザイン性も機能性もベストな案を採用するのが当然のことであると考えます。

現段階において設計料の入札などという安易なステップを選択するのでなく、まずは設計プロポーザルや国際コンペを見据えた、従来型方式の在り方について県議会において十分な議論をしていただくことを強く要請いたします。

3. 従来型方式での進め方やその在り方が未だ全く議論されていない、不確定といえる現状では設計料9億円の承認の可否を議論するような段階ではありません。

また、上記のように十分な説明や議論がなされていない現状では5月26日月曜日の県議への説明会の際の報道にもあったような、「今後の更なる資材・人件費高騰をふまえると早急に整備しないといけない」などというロジックは、全く通用しませんし、「もう後戻りはできない」などという段階では到底ありません。

施設規模や整備予定地についての見直しを求める数多くの県民の意見が上がっている現状を踏まえても、スポーツ・コンベンションセンター整備計画について県議会においては、設計料9億円などという目先の議論の前に、総合的かつ抜本的な熟議をしていただくことを強く要請いたします。